

令和2年度 事業報告

社会福祉法人ともいき会



◇法人理念「ともにいきる」

理念を実現していけるよう、地域の中で「はたらく」を通して、その人なりの生活を営み、ともにいきる社会を目指していくために、幼児期から成人期まで、ライフステージを通して切れ目のない支援を提供していきます。

◇基本姿勢

・人を大切にします

ひとりの「人」として向き合うこと。

相手の良さを知り、自分の良さを知ること。

相手から学び続けること。

・誠実に向き合います。

人に対して誠実に向き合うこと。話を聴き一緒に考えること。

仕事に対して誠実に向き合うこと。報告連絡相談を徹底し、常に考え、実行、見直していくこと。

行動言動が常に法人の職員として見られていることを意識すること。

法令等を遵守すること。

・「はたらく」姿を支えます。

先が見通せることで保護者に安心感を与えること。

できることに着目し、体験を通して、社会性を身に付けること。

はたらくことができることを実証し続けること。

1. 法人本部所在地

〒388-8007

TEL 026-299-3787

長野県長野市篠ノ井布施高田1034-3

FAX 026-299-3839

2. 役員組織

理事:6名

監事:2名

評議員:7名

3. 総 括

法人としては、長野市障害者及び障害児福祉計画に掲げられている3つの基本的視点、・ひとりひとりの尊重、・地域生活移行の推進、・地域で支えあう福祉の推進、また法人理念に基づいて、各部会(権利擁護、リスクマネジメント、安全衛生、人材育成)が研修を計画実施し、日頃からの啓発活動、法人理念の実現に向けた取り組み、権利擁護への意識向上、各センターが「はたらく」ということに焦点を当てて、一般就労への移行促進を目指してきています。

令和2年度は、全事業において新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けました。感染拡大についてはできる限りの対策を実施し、現状では職員利用者において感染者は発生していません。このような状況下でも、法人としては、できる限りリスクを減少させながら、通常開所していくことを第一として事業活動を実施しました。活動内容については、ウィズフェスタの中止、外出活動の縮小等ありますが、まずは開所することで本人保護者の安心感を得られるように支援してきています。

新たな事業展開に向けて、プロジェクトチームを立ち上げ、地域のニーズを汲み上げ、日中活動の場所、暮らす場所、サービス内容等あらゆる観点から、話し合いを進めています。まずは日中活動のための物件探しといった所で、土地の取得を中心に、不動産会社、設計事務所、銀行へ情報提供の依頼を行い、やり取りを行っているところです。当初予定していた長野市南部障害者相談支援員の公募参加については、人員要件の関係で、非該当であったため、参加を見送りました。

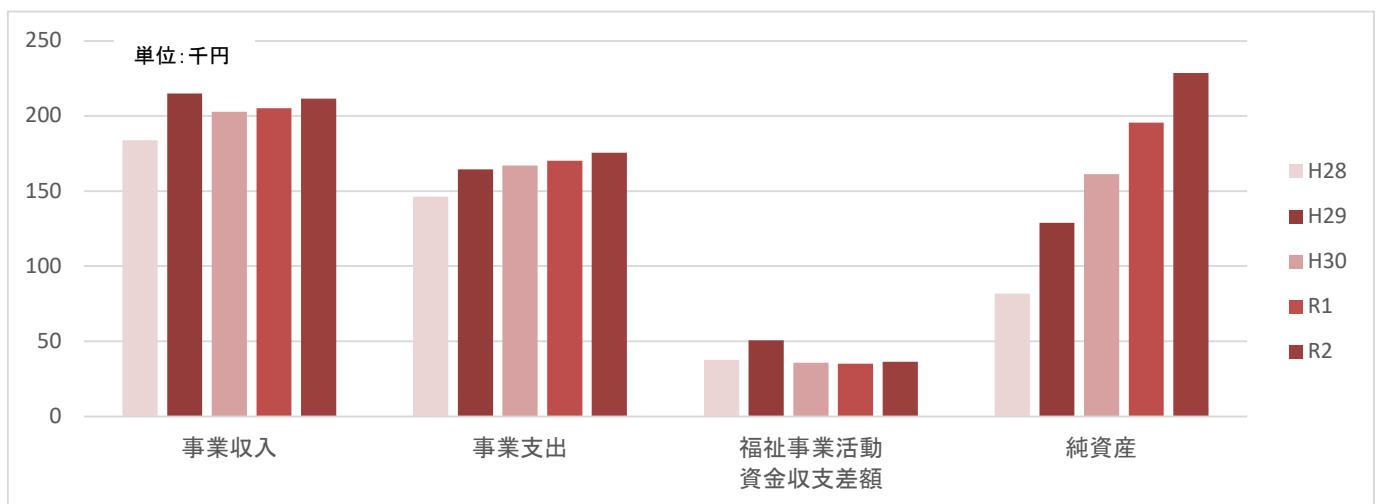
4. 経 営

社会福祉法人ともいき会 過去5年間決算推移

(単位:千円)

	H28	H29	H30	R1	R2	(前年比)
事業収入	183,920	215,016	202,733	205,186	211,619	103%
事業支出	146,313	164,437	167,024	170,101	175,419	103%
(うち人件費)	109,993	126,307	128,596	132,079	137,159	104%
人件費率	60%	59%	63%	64%	64%	100%
福祉事業活動 資金収支差額	37,606	50,579	35,709	35,085	36,200	103%
就労支援事業 活動収支差額	-377	-776	-699	-54	-64	-
施設整備・ 財務活動	-11,340	-9,308	-26,351	-16,944	-24,687	146%
当期収支差額	26,266	41,271	9,358	18,141	11,513	-
純資産	81,637	128,844	161,294	195,618	228,509	117%

※H30:施設整備積立2,000万円。 R1施設整備積立1,000万円。 R2施設整備積立1,000万円、人件費積立1,000万円。



R2年度、事業収入においては、前年比3%増収となりました。上期は前年比減収でしたが、下期においては、今まで行ってきた新しい利用者に来ていただく取り組みが当たり前のように行えていること、稼働率への意識、また報酬加算の取得によるものと考えられます。

事業支出については、全体としては、ほぼ予算通りに執行しました。人件費については、全体的なベースアップ及び前年に引き続き特定処遇改善加算を取得し、特定の人材(経験年数、資格保持者)についての人件費に充てることができました。新型コロナウイルスの影響により、数字としては保健衛生費の増加、旅費交通費の減少などに顕著に現れました。

職員については、国における「小学生休業等対応支援金(学校等休校により子の見守りのため出勤できない職員への休業補償)」、「長野県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業」を活用し、職員全員に5万円給付、また補助金218万2千円にて衛生用品、リモート用品等の物品の購入を進め、安心して働き続けられるよう取り組みを行いました。11月には正規登用試験を実施し、3名の職員を正規職員として登用しました。

R2年度決算により、社会福祉充実残額が発生しましたので、別紙社会福祉充実計画に沿って、再投下していく予定となっています。

5. 法人会議

会議名	回数	主な協議内容
理事会	2	・6月 5日 監事監査 ・6月 8日 理事会(書面議決) 令和元年度事業報告、計算書類、財産目録の承認
評議員会	1	・6月29日 令和元年度事業報告及び決算報告
運営会議	月1回	・各事業所運営経営状況確認、課題、対策に向けた取り組み検討
各部会議	月1回	・人材育成部会 ・安全衛生部会 ・権利擁護部会 ・リスクマネジメント部会

6. 苦情受付

件数	0件
苦情件数はありませんでした。 苦情は法人に対する要望として捉えていく姿勢を持ち続け、サービスの質の向上に向けて誠実に支援に取り組みました。	

7. 虐待事案

件数	0件
虐待事案はありませんでした。 虐待防止に向けた取組としては、権利擁護部会を中心に、虐待に関する基本的事項、法人理念、基本姿勢の浸透に向けて職員研修等を実施しました。	

令和2年度 業務報告		社会福祉法人ともいき会		
部会名		権利擁護部会		
業務目的		○福祉サービスの質の向上に向けて、法人としての業務状況を常に掌握検証し、適正な業務運営を進めます。 ○権利擁護部会では、障害者の虐待防止の啓発及び研修を進め、障害者の人権の尊重や権利擁護の具現化をすること、並びに利用者に安心と安全を提供するサービスの質の向上を目指した活動を展開します。		
業務 実 施 内 容	○6月職員研修 実際に他県において虐待として通報があった事例を大人のサービス支援者向け、児童のサービス支援者向けと2パターン用意をし、部署ごとに、考えられる要因と、防ぐ為の対策の検討を個人ワーク・グループワークとして実施しました。 研修のポイントとして、虐待と認識しておこなっているわけではなく、支援者と利用者の想いのズレや気付かないうちに虐待に繋がる可能性のあるグレーゾーンについて焦点を当て、「虐待が起こりにくい環境作るためには」を考えていけるよう実施しました。			
	○部会員による外部研修への参加 権利擁護推進基礎セミナーへの参加及びオンライン研修による受講等部会員の自己研鑽に努めました。 ○11月権利擁護基礎研修 長野市権利擁護センターバタデーイズに委託をし、前回の権利擁護基礎研修以降に入社された方を対象に研修を実施しました。 ○チェックリストの作成について チェックリストの原案は概ね出来上がりました。ただし、「やりっぱなしにならない」ためにチェックをつける意味や、その後のフォローアップの仕方、対策まで深めることができていない現状があり、実施までは至っていません。実施後の振り返りと今後に繋げていくことを次年度の課題として検討していきたいです。			
年 間 取 組	月	取り組み	月	取り組み
	4月	職員研修に向けて資料作成①	10月	11月の研修に向けて
	5月	職員研修に向けて資料作成②	11月	外部講師依頼権利擁護基礎研修(前回未受講の方のみ)
	6月	職員研修に向けて研修実施	12月	11月研修振り返り 次年度外部講師依頼研修について
	7月	職員研修振り返り 次回の研修に向けて	1月	活動まとめ 次年度事業計画
	8月		2月	次年度職員研修に向けて研修内容検討①
	9月	11月職員研修に向けてチェックリスト作成	3月	次年度職員研修に向けて研修内容検討②

令和2年度		業務報告		社会福祉法人ともいき会	
部会名		安全衛生部会			
業務目的		○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人内の業務状況を常に把握検証し、適切な業務運営を進めます。 ○各部署に適宜情報発信・助言が出来るように、部会員一人ひとりが防災、感染症等について知識を深めスキルアップを図ります。 ○利用者、または保護者が安心して利用できるように法人設備の管理を行います。			
業務実施内容	○防災訓練の実施 〈地震〉…各避難場所への避難 ・6月22日(月)AM:生活・児童 PM:放課後 ・6月24日(水)PM:就労 ・7月1日(水)PM:キャリサポ・ナカポツ 〈水害〉…各避難場所への避難 ・11月11日(水)PM:キャリサポ、ナカポツ ・11月11日(水)AM:生活・児童 ・11月11日(水)PM:就労 ・11月12日(木)PM:放課後 ＊今年度はコロナウィルス感染防止対策として3密を避けての避難訓練。消防署の立ち合いはなし。 ＊災害時備蓄品の購入・設置。				
	○法人設備の管理(安全点検) ・7月・11月実施。				
	○啓発活動 ・感染症状況の把握、感染症・天候等の配信が後手後手になり、状況把握・十分な注意喚起が出来ませんでした。 ・救急セット・ノロウィルス対策セットの内容確認・補充を各部署に発信しました。 ・インフルエンザ予防接種の推奨。職員に予防接種費用3,000円の補助を実施。 ・安全運転啓発として、70歳継続雇用研修(生活介護ドライバー)の推奨・実施。				
	○福利厚生 ・コロナウィルス感染防止対策のため、歓迎会・忘年会は見送りました。				
	○職員のスキルアップ ・防災訓練について。 ・救急救命研修、上半期はコロナウィルス感染防止対策として各講習が中止。来年度検討します。 ・法人全体研修「台風19号の被災状況から学ぶ」9月・10月実施しました。 昨年度の台風19号による水内荘の被災状況や教訓をもとに、非常時の課題の想定や対処法を各部署でイメージすることにより、対処法を確認しました。				
	○研究活動 ・非常災害対応資料・災害時緊急連絡網の整備・作成 ・外部研修参加 「障害のある子、それぞれの老後と非常事態時の支援を考える」 「感染症対策オンライン研修」				
	○今後の検討事項 ・部会員の研修(応急手当普及員講習)への参加、職員への周知。 ・防犯マニュアルの作成。				
	年間取組	月	取り組み	月	取り組み
4月		第一回安全衛生部会 年間計画の確認、職員歓迎会計画・実施	10月	法人研修「事故対応について」実施、振り返り 避難訓練計画、実施	
5月		避難訓練計画	11月	避難訓練振り返り 法人設備安全チェック、報告書作成	
6月		避難訓練実施、振り返り	12月	感染症啓発(予防接種の推奨) 忘年会計画、実施	
7月		法人設備安全チェック、報告書作成	1月	感染症啓発	
8月		法人全体研修「事故対応について」内容検討	2月	今年度の取り組みのまとめ	
	9月	法人全体研修「事故対応について」計画 避難訓練計画	3月	次年度活動計画作成	

令和2年度		業務報告		社会福祉法人ともいき会	
部会名		リスクマネジメント部会			
業務目的		○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人業務状況を常に把握検証し、適切な業務運営を進めます。 ○リスクマネジメントを通して、法人コンプライアンスの遵守等、職員への啓発と共に、利用者に安心して利用していただくために、安全と的確なサービスの実施に努めることを目的とします。			
業務実施内容	○各部署におけるリスクマネジメントの実施と把握 ・ヒヤリハット:口頭報告も含めて、ヒヤリハットの報告は上げられており、部署内で対策や類似案件の検討がなされていると感じます。今後は「口頭報告」→「記録用紙への記入」を浸透させていくことが課題として挙げられます。 ・事故報告書、モニタリング:事故発生直後の対策の検討はされており、意識の向上にも繋がっています。意識の継続と対策の日常化をするための取り組みについては検討、啓発を重ねていきます。				
	○定期部会における現状把握と情報共有 ・事故対策委員会を開催する事案はありませんでした。 ・内容の検討を部会内で行い、俯瞰的な視点で対策・検討をし部署へ周知しました。また、チェックリストを作成、実施することにより、新しい職員も含めて各部署で気をつける点を共有することが出来ました。				
内容	○部会員によるリスクマネジメントの学習 ・リスクマネジメントに関する目的、役割、実施手順を年度初めに確認し、年度を通してリスクアセスメントの学習・周知を行いました。 ・部会員がリスクアセスメントをゼロから学ぶことにより、職員へ分かりやすく伝えることにも留意しながら11月に職員研修を実施しました。また1月には部会内でケースについてアセスメントを行い検討を行いました。今後各部署で実際に活用し、事前のリスク回避に繋げていければと考えています。 ・外部研修への参加はありませんでしたが、情報収集行い、必要な研修には参加したいと考えています。				
	○リスクマネジメントの啓発活動 ・事故報告書、ヒヤリハットを部署で報告し検討を行いました。日常的に「これはヒヤリハットだね」と意識する雰囲気も出てきています。 ・ヒヤリハットの意識をどのように継続させるか部会内で検討しました。部会員の日常的な声掛け、口頭報告の記入、マイナスではない雰囲気づくり等の意見が挙がり、意識して啓発する必要性を感じています。				
年間取組	○個人情報漏洩に対する予防と対策 ・部会での具体的な検討には至りませんでした。次年度はまず部会員で「個人情報とは？」から学習を行い全体周知へ繋げていこうと考えています。				
	月	取り組み	月	取り組み	
組	4月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 今年度の活動について リスクマネジメントの学習・復習	10月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 職員研修の内容検討 職員研修の実施	
	5月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 課題抽出(部署毎の課題について)	11月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 職員研修の実施 職員研修の振り返り	
	6月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング リスクアセスメントの学習	12月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 次年度に向けて方向性の検討 リスクアセスメントのロールプレイ	
	7月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 リスクアセスメントの学習	1月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 次年度、部会活動計画の検討	
	8月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング ヒヤリハットの啓発について 職員研修の内容検討	2月		
	9月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 職員研修の内容検討	3月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 年間の振り返り、まとめ(業務報告作成)	

事故報告分類・分析

1.事故報告月別件数

部署 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童		1							3				4
放課後	1					1	1					1	4
キャリサポ								1					1
生活	1											1	2
相談													0
就労	2				1			1		1			5
就業・生活	1												1
件数	5	1	0	0	1	1	1	2	3	1	0	2	17

2.分類別事故報告件数

分類 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
怪我	1								1			1	3
熱傷													0
誤嚥													0
異食													0
薬													0
対人							1						1
物損	1				1			1		1			4
紛失	1												1
車輻関係	2	1						1				1	5
情報管理													0
その他						1			2				3

その他内訳 ・送迎忘れ・会議忘れ・アレルギー体質児の摂食

3.主な内容、分析

事故報告件数	上半期8件、下半期 9件、年間件数 17件	ヒヤリハット	年間件数 355 件
部署別内訳			
発達児童	4 件	車輻物損、アレルギー体質児の摂食、会議忘れ、転倒切創	
発達放課後	4 件	物損、対人暴力、送迎忘れ、転倒怪我	
キャリサポ	1 件	車輻物損	
生活	2 件	対人暴力、車輻物損	
相談	0 件		
就労	5 件	紛失、車輻物損、物損3	
就業・生活	1 件	交通違反	

○分析

・事故報告年間件数17件のうち、約30%に当たる5件が車輻関係の事故報告でした。個々の運転時の安全意識を部会、部署においても啓発を常に続けていきます。

・サービス利用中における、事故発生時の行政への報告義務による報告は、1件(転倒切創)でした。

・発生した事故に関しては一つ一つ事故報告書として作成することで、発生状況、要因暫定対策等を確認し、リスクマネジメント部会にて定期的な見直し、恒久対策までの確認を行いました。

・ヒヤリハットの年間件数は355件でした。内容によってはモニタリングを行い、対策の実施と効果の確認を行いました。記入することへの意識向上と継続の為に、啓発を続けていきます。

令和2年度 業務報告		社会福祉法人ともいき会
部会名	人材育成部会	
業務目的	○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人としての業務状況を常に把握検証し、適正な業務運営を進めます。 ○法人職員の研修事業を中心とし、質の向上のために要求されるスキルを身につけると共に利用者や法人に貢献できるようスタッフの育成を目指していきます。	
業務実施内容	【職員研修】 ○第1回 職員全体研修(権利擁護部会)①6月17日午後、②7月8日午前、③7月8日午後 テーマ『事例から虐待の要因と対策を検討する』 ○第2回 職員全体研修(安全衛生部会)①9月23日午前、②9月23日午後、③10月1日午後 テーマ『台風19号の被災状況から学ぶ』 ○第3回 職員全体研修(リスクマネジメント部会) ①10月26日午後、②11月5日午後、③11月5日午後、④10月30日午前、⑤10月29日午前、10月28日午後 テーマ『リスクアセスメントについて』 ○第4回 職員全体研修(人材育成部会)①12月9日午前、②12月9日午後 テーマ『1.ビジネス大喜利・2.新人発表・3.良いところ表彰』 *コロナ感染防止策として、終業後に全体で開催する従来の方法を見直し、出来るだけ3密を避け、多くの職員が出席できるよう検討しました。結果、就業時間内で、午前・午後の2グループに部署を分けたり、各部署毎であったりと各部会と相談し工夫をしたところ、平均33名が出席することが出来、研修内容を共有し部署内で共通認識が図れました。 (課題) 午後の開催は送迎等により1時間開催が限界のため、工夫を検討します。 【新人職員OJT研修】 ○ 5月25日～7月10日までの間、8名の職員実施 *今年度より、新人研修の際に各部署の見学を導入することで、予め場所やイメージがもてました。今年度より、ナカボツセンターも体験場所に加え、企業訪問や支援会議等に参加してもらいました。 (課題) 日程調整や打合せ等のスケジュールが過密なため、余裕を持った取り組みを行います。 【派遣研修・法人内研修・新人研修】 *コロナ禍で研修数が減少。県外出張は1名のみであった。しかし、法人内でリモート研修受講が可能となり、県内のみならず県外(遠くは北海道)主催の研修やセミナー、利用者も参加型の講座を受講し、知見を広めることができた。 ○来年度に向けて ・職員研修については、各担当部会と協議し、1回に凝縮せず、部署毎やグループ等複数回に分けての実施も検討します。 ・OJT研修については、新人職員以外の職員からも希望が出ており、アンケートを実施し新人職員以外の職員も対象としていきたいと考えています。 ・管理者向けや中堅職員、新人職員それぞれに必要な研修を提案していきます。	

○ 1年間の取り組み

月	人数	内 容	人数	内 容
4月	部会員	部会の目的等の確認、研修把握		
5月	部会員	職員OJT研修計画		
6月	全職員	職員面談 ①	2名	新人研修 ①
6月～7月	部会員	職員OJT研修計画、調整	8名	
	全職員	全体研修『事例から虐待の要因と対策を検討する』		
7月	1名	施設における感染予防		
8月	1名	就業支援基礎研修	4名	障害のある子、それぞれの老後と非常事態時の支援を考える
	1名	障害者就業・生活支援センター就業支援担当者研修(千葉)		
9月～10月	全職員	全体研修『台風19号の被災状況から学ぶ』	2名	新人研修 ②
10月	2名	めすだOTのスキルアップ講座	1名	障害者虐待防止・権利擁護研修
10月～11月	全職員	全体研修『リスクアセスメントについて』	全職員	職員面談 ②
11月	3名	ゆったりずむ～学齢期の特別支援教育～	(オンライン) 1名	ネットゲーム依存症の実態と対応
	(オンライン) 全職員	就労支援フォーラムNIPPON福岡	2名	R2年度第1回職場適応援助者養成研修
12月	(オンライン) 1名	就業・生活支援センターブロック別会議	(オンライン) 1名	災害からご利用者の命を守るために専門職にできる事
	(オンライン) 全職員	感染症対策オンライン研修	(オンライン) 1名	相談支援従事者主任研修
	全職員	全体研修『1.ビジネス大喜利・2.新人発表・3.良いところ表彰』		
1月	(オンライン) 1名	サービス管理責任者・児童発達支援管理者基礎対応 相談支援従事者初任者研修 講義部分	(オンライン) 1名	障がいのある人の健康診断～幼児期から必要な事～
	(オンライン) 1名	主任職場定着支援担当者交流会	(オンライン) 1名	ひきこもりと行動障害から見える生涯の発達支援
	(オンライン) 6名	サービス管理責任者更新研修		
2月	(オンライン) 1名	キレルはこころのSOS	(オンライン) 7名	福祉の現場からてんかんの人の支援について考える
	全職員	職員面談 ③	部会員	次年度部会計画の作成

・コロナ感染拡大による緊急事態宣言、宣言解除後も研修数が激減しました。今年度の外部研修は出張型の研修は8研修15名(うち県外での研修は1研修1名)でした。下半期からはオンライン形式での研修が主流となり、法人内でもパソコン等環境整備を行い参加可能となり、13研修22名、全職員参加型2回を受講しました。オンライン研修のメリットとして、勤務時間内に誰でも参加出来るためより多くの職員に研修の機会が設けられました。また、遠方のナカボツで開催される就労支援セミナーにオンラインで参加し繋がることができました。デメリットとしては、参加型の研修(資格取得に向けた)等は1日や複数日の研修が多く、集中して取り組むには自宅等での研修を検討する必要性がありました。

令和2年度 社会福祉法人ともいき会 ウィズ発達支援センター(児童発達支援) 年度末事業報告

1	事業目的	○就学前児童の支援を行います。個別の活動、集団生活における体験を通じ、将来の社会生活で大切なことを学び、実践できるような支援をおこなっていきます。そのために、一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。また、たくさんの経験を積み、「はたらく」大人を目指して、人を大切に支援をしていく事を目的とします。	
2	事業内容	障害児通所支援	○児童発達支援
3	事業概要	児童発達 定員10人 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～15:00	
4	職員体制	児童発達支援管理責任者1名、保育士3名、指導員3名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	一人一人の得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。	○本人・保護者の思いや願いをもとに、日々の様子を観察し個別支援計画を作成、考察をしながら支援を行いました。 ○月ごとに個々の姿を振り返り、モニタリングを行いました。ケース検討を行い、日々の支援での気付きや計画の見直し等、スタッフ間で情報を共有しました。	6ヵ月ごと 随時
		○朝の会の個別課題の取り組みを評価し、次回課題へと繋げました。 ○季節に応じた活動や、成長に合わせた活動を提供し、様々な経験を重ねました。 ○活動・遊びを展開するなかで、新たな事柄に挑戦すること、お友だちと協力して遊ぶこと等、体験する機会を設けました。	随時
1	将来「はたらく」を目標に、活動内容を充実させていきます。	○自粛生活で制限はありましたが、児童が楽しむこと・学ぶことが出来る活動を考え、感染症対策を行いながら日々の活動や行事を行いました。マスク着用の練習の機会にもなり、買い物学習・図書館利用の際にも実施することが出来ました。また、少人数での遊びや、簡単なルールのある遊びのなかで、集団生活に必要な順番・交代・ルールを学ぶ機会を作りました。	通年
		○朝の会では年齢や発達、活動によりグループ編成をし、課題の共有が出来るよう記録を残しました。個々に合わせた内容を設定し、「自分で出来た！」という経験や、最後まで取り組むことを経験し、身に付けました。	通年
		○月毎の活動の他、感染症対策として少人数での行事を企画し、プチ縁日・ハロウィン・クリスマス会等では、他部署と交流したり、地域の郵便局を訪問させていただき交流を図りました。 ・年間を通して:買い物学習・アート活動 ・今年度は行事の際に弁当を発注し、「お友だちと同じメニューを食べる」という経験も併せて行いました。	通年

1	保護者、関係機関との連携を強化します。	○保護者との面談や参観、送迎の際に情報を共有しながら支援を行いました。 ○登園自粛期間には電話にて家庭での様子を確認し、家庭でも行うことの出来る課題を提供しました。	随時
		○必要に応じて保育園・幼稚園訪問、支援会議、リハビリ見学を行い情報を共有し、日々の支援へと繋がりました。	随時
		○自立支援協議会(こども部会)は感染防止対策として延期・中止となりましたが、関係機関等とは電話による情報交換や必要に応じて支援会議を行いました。	随時
		○学校からの申し出により、今年度は就学説明会を中止しましたが、年長児の希望する保護者に個別で対応しました。	6月
		○全保護者を対象に保護者会を開催し、保護者同士の交流の輪を広げました。4月～5月に開催する予定でしたが自粛期間と重なったため、例年通り12月に開催し、放課後等デイサービスの説明会も併せて行いました。今年度は感染症対策として、篠ノ井交流センターをお借りして開催しました。	12月
2	職員の支援技術の向上を目指します。	○1ヵ月の記録をもとにミーティングを行い、日々の気づきや課題の共有、支援方法の検討を行いました。また、モニタリングや個別支援計画の作成をスタッフ全員が行い、支援技術の向上に努めました。	月2回 随時
		○ヒヤリハット・事故報告書の作成を行い、状況確認と検討、月1回のチェックシートでの振り返りを行い、再発防止を図りました。	随時
		○外部研修(オンライン研修含む)への参加をしました。 ・自立支援協議会(子ども部会)、「コロナウィルス感染症対策」「てんかん発作について」他。	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○児童発達支援事業のパンフレットを関係機関に配布・補充し、当センターを知ってもらい、必要と思われるご家庭への配布や設置をお願いしました。	随時
		○新規利用に繋がるよう、保健センター・療育コーディネーター等、関係機関と情報交換をしました。	随時
		○ホームページで自己評価表・保護者アンケートの掲載を行いました。また、行事などの活動の様子を新着情報として掲載、支援状況に合わせて画像の更新も行いました。	随時
2	地域の方々に知っていただけるよう発信をしていきます。	○地域の方々、利用者・利用者家族が楽しむことの出来るイベント「ウィズ・フェスタ 2020」は開催できませんでしたが、ハロウィン等の行事を通じて地域の方々と交流することが出来ました。	随時

(発達別紙)

1. 利用状況

児童発達支援

		登録者数	未満児	年少児	年中児	年長児	新規利用者数	延利用者数	稼働率
H30	年度	27	3	6	7	11	7	2024	84.2%
R01	年度	22	5	4	6	6	9	1802	75.0%
R02	上半期	22	2	7	7	6	5	792	65.5%
	下半期	22	5	5	7	5	3	990	81.1%
	年度	22	5	5	7	5	8	1782	73.3%

○分 析

○3月現在22名の登録。県外へ転居児童が1名、保育園・幼稚園への完全移行が出来た児童が2名おり、3名が途中退所となりましたが、保育園・幼稚園の入園申し込みが始まる10月あたりから見学・体験希望者が増加傾向にあり、今年度は8名が利用に繋がりました。、園行事・リハビリ・感染症等で欠席する児童も依然として多く、また今年度はコロナウィルス感染防止対策として、4～5月に登園自粛をお願いしたため稼働率は減少しました。また、要保護児童を含め、児童養護施設措置児童が2名入所し、支援に配慮が必要な児童が増えています。

予約人数は安定してきていますが、コロナウィルス感染防止対策としての自粛や感染の可能性も踏まえ、長野市を中心に療育コーディネーター・保健師等と連携し、新規利用者獲得のための宣伝活動が今後も必要と思われます。

○昨年度に引き続き、保育園・幼稚園・保健センター・医療機関・行政等を訪問し、宣伝用のパンフレットを配布したり、ホームページでの宣伝も始め、利用者確保に繋がっています。療育コーディネーター、相談員と情報交換も、今後継続していく予定です。

2. 連 携

		支援会議	家庭訪問	関係先訪問	保育園・幼稚園移行
H30	年度	43	6	47	5
R01	年度	62	8	35	5
R02	上半期	15	4	5	4
	下半期	28	4	3	3
	年度	43	8	8	7

連携先

・福祉(市委託相談員、療育コーディネーター)、教育(各幼稚園・保育園、各特別支援学校、各学校、教育センター)、医療(稲荷山医療福祉センター、竹重病院、長野日赤、長野中央病院、長野市民病院、各保健センター)、行政(市町村健康福祉部、保健所、こども未来部、中央児童相談所)、その他(保護者等)

○分 析

○療育コーディネーター・保健師からの紹介で利用に繋がるケースが中心となっています。園と併用している方には園訪問・関係者会議を行うことで連携を図り、就園を希望されている保護者の方には情報提供をしています。また、医療機関でのリハビリを行っている方に関してはOT・STの様子を見学させていただいていますが、今年度はコロナウィルス感染防止対策として制限があり、園訪問や支援会議、OT・STの見学等、関係機関への訪問は自粛し、電話等で情報交換が主となりました。

○関係機関と連携を図りながら、保護者の方の願いである幼稚園・保育園への移行を目指し、今年度は完全移行が出来た児童2名を含む、7名の児童が幼稚園・保育園への移行が出来ました。週1～5回の登園と児童によって利用の頻度は様々ですが、児童の様子を観察しながら完全移行を目指していきます。

1	事業目的	将来の「はたらく」大人を目指して、社会体験や、自立した生活を送れるための機会を提供し、自分で選択、実現できる力を伸ばせるような活動を実施していきます。また、集団での生活や遊びの中で、人と人との関わりを大切にしながら、自分の思いを整理して伝えたり、相手を思いやることのできる力を育めるような支援をしていきます。	
2	事業内容	障害児通所支援	○放課後等デイサービス
		地域生活支援事業	○移動支援、タイムケア、自立サポート
3	事業概要	放課後等デイサービス 開設時間平日8:30～18:00 サービス提供時間15:00～18:00 定員10名 休日8:30～18:00 サービス提供時間9:00～15:00 移動支援・タイムケア・自立サポート	
4	職員体制	放課後等デイサービス 管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、保育士2名(うち常勤1名)、児童指導員5名 地域生活支援事業 指導員等15名(非常勤職員)	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	利用者・家族の想いを聞かせていただき、一人ひとりのニーズに寄り添った支援をしていきます。	○利用者・家族の想いを聞きながら、遊びや、個別目標等の活動を通じて一人ひとりのニーズに合わせた支援を行いました。	通年
		○学校や家庭、他機関等からアセスメントを行い、個別支援計画に基づいた支援を行う事で、支援内容の統一を図りました。また、新たな可能性や目標、継続の必要性から計画の見直しを行いました。	通年
		○ご本人の様子や日々の記録を基に、定期的なモニタリングを実施し、家族の方に様子や支援での気付き、日々の成長等もお伝えしました。	6ヶ月毎
1	将来の「はたらく」大人を目指して、活動内容を充実していきます。	感染症対策に留意し、主に戸外活動を増やしたり、全員参加で人数を分散できるような活動を実施しました。また、季節を感じてもらえる行事を行いました。 ・野菜の栽培として、プランターで種から枝豆栽培、花壇作りを行いました。園芸活動に興味を持つ児童も見られ、成長から収穫まで行う事ができました。	通年 4月～11月
		○7月まで行事は中止としました。夜間、花火大会やクリスマス週間等、コロナ禍の中で状況に合わせた活動を行いました。 ・大人の方を対象とした活動は中止としました。	月1回程度
		○法人内センター協力の下、それぞれの目標に応じて就労体験を行いました。 ・パンフレット折り、ボールペン組み立て、朝会等。	10月等
		○児童発達(プチ縁日への招待を受ける、市民プール)、生活介護(DVD鑑賞、ウォーキング)、キャリアサポート(体育活動)等、交流活動を楽しみました。	随時
1	保護者、関係機関との連携を強化します。	○保護者や学校、他事業所と連絡を取りながら、スムーズに利用できるように家庭や活動先の様子の情報交換や共有を図りました。 ・個別面談は、コロナ禍の為中止しました。来年度より実施を計画していきます。	随時
		○各種会議に参加し、情報交換や共有を図り、支援の方向性の統一を図りました。	随時
		○自立支援協議会(長野市子ども部会)へ参加し課題の検討や情報交換を行いました。放課後事業所連絡会は今年度中止となりました。	通年
		○児童発達、年長児の保護者を対象に、放課後等デイサービスの説明会を実施しました。	12月

2	職員の支援技術の向上を目指します。	○部署内ミーティング等で、会議や個別支援計画の確認、課題や支援における方向性の統一を図り、意識向上努めました。	月2回
		○ヒヤリハット・事故報告書等の作成を行い、部署内で議題とし、状況確認と検討、再発防止に向けて必要に応じてモニタリングを実施しました。	随時
		○法人内の部会・研修や外部研修への参加を行い、支援技術や意識の向上を図りました。 ・LD通級指導教室概要、サビ児管更新研修等	随時
2	新規利用者に来ていただけるような活動を展開します。	○相談支援専門員と連絡を取りながら空き状況の発信や希望者の見学を随時行いました。	随時
		○活動報告を保護者向けお便りとして発行し、合わせてホームページへ掲載を行いました。	随時
		○保護者アンケートと共に事業者自己評価表の検討、記載を行い、ホームページへ掲載を行いました。	2月

(放課後別紙)

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	稼働率	大人登録者数
H30	年度	41	22	8	11	6	2602	89.5%	35
R01	年度	46	25	9	12	8	2644	87.3%	34
R02	上半期	40	25	9	6	5	1170	76.3%	32
	下半期	37	24	8	5	2	1305	85.3%	32
	年度	40	25	9	6	7	2475	80.8%	32

2. 月別利用者

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日		26	26	26	27	23	26	27	25	26	24	24	27
延べ人数		136	126	233	234	223	218	233	210	232	203	194	233
大人利用者		135	128	155	176	141	165	163	146	158	135	132	139
稼働率		52%	48%	90%	87%	97%	84%	86%	84%	93%	85%	78%	86%

※定員10名

3. 利用学校別

		養護学校	地域小学校	地域中学校	中間教室	地域高等学校
H30	年度	3	4	1	1	0
R01	年度	3	4	1	1	0
R02	年度	2	6	1	1	0

○分 析

○新規利用者として、新1年生が4月より児童発達から3名、他から1名、9月より1名の計5名が利用を開始しました。平日は登録1日平均11名、土曜日は不定期登録者も含めると15名程度で、平均8名が利用されています。

○新規1年生は、まずは学校生活に慣れていただく事を念頭にGW明けからの利用をお勧めしていますが、4月からの利用の方にも対応しており、実際に2名の方が4月より利用されています。

○長野養護学校の利用者が卒業し、今年度より新規に週3日、下氷鉤小学校への送迎を開始しました。約6割の方が稲荷山養護学校の利用者ですが、年々地域校利用の方が増加傾向となっています。

○今年度はコロナ禍により、春休み明けすぐの4月13日(月)から5月29日(金)まで長野市小中学校、養護学校(各学校により週1回から2回の分散登校等あり)が休校となりました。事業所の対応としては平日は通常開所とし、休日は朝からの開所を行いました。利用率は自粛やキャンセル等により5月末まで5割程度となりましたが、以降はほぼ通常の稼働に戻っています。活動においては、室内活動が制限される中、県の警戒レベルに応じた活動先や、感染予防対策を実施しながら屋外活動を中心に組み立てを行いました。

4. 連 携

		支援会議	関係先訪問
H30	年度	48	12
R01	年度	51	18
R02	上半期	11	4
	下半期	23	3
	年度	34	7

連携先

・福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、児童相談所、相談支援事業所、長野市ボランティアセンター、他サービス事業所)、教育機関(各特別支援学校、各地域の小中学校、中間教室)、医療機関(稲荷山医療福祉センター、竹重病院)、行政(市町村健康福祉部、こども未来部等)、その他(保護者、親戚)

○分 析

○利用については、児童発達での説明会、相談支援専門員や学校、保護者の方からの問い合わせにより、見学や体験、実際の利用に繋がっています。今後も継続的に情報交換を行い、事業所の特徴や、空き情報等の発信を行っていきます。

○支援・関係者会議は、コロナウィルス感染予防の為中止や、電話での様子の聞き取り、紙面での提出による代替が多くみられました。その為、4月、5月については、会議は2件のみ、見学や関係先訪問は中止となりましたが、徐々に増加し下半期はほぼ例年と同程度の回数に出席しています。各種会議については、本人の様子や検討事項、課題、可能性、利用等についての確認、共有を行っています。また、学校で開催される会議は就学時間後の開催も多く、支援と重なってしまう為、出席が出来ない現状も課題となっています。

○各年齢で相談内容は様々ですが、関係機関で役割分担をしながら、安心して事業所利用、学校生活、家庭生活を送れることを目標に支援に取り組んでいます。

1	事業目的	「大人になったらはたらこう」の理念のもと、将来自信をもって社会人になることを目指します。そのために、学齢期の自信をもとに自己理解を深め、一人ひとりの自己実現に向けて主体的に自己決定ができるよう、キャリア発達支援をしていきます	
2	事業内容	障害児通所支援	○放課後等デイサービス
3	事業概要	定員10人 平日 開所時間 10:00～19:00 サービス提供時間 14:00～18:00 土曜・長期休暇 開所時間 9:00～18:00 サービス提供時間 10:00～16:00	
4	職員体制	児童発達支援管理責任者1名、指導員2名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	(利用に当たり) 利用者一人ひとりの想いを傾聴し、目標を明確にした利用ができるよう、サービスを提供します。	○サービス利用に当たり、キャリアサポートセンターで頑張りたいことや取り組んでみたいことなど、本人及び保護者の想いを丁寧に聞き、個別支援計画の作成に努めました。	利用開始時
		○モニタリングでは、日々の記録を基に、出来たことのフィードバックや今後の課題を明記し、ご本人に伝えることで、常に目的を持って利用してもらえよう努めました。	半年ごと
1	(生活スキルの向上) 利用者が自分らしく自信を持って生活していくために、出来ることを増やす支援をします。	○実際に起こった困った場面や出来事を講座の中に取り入れることで、イメージがしやすく、また振り返りをしつつ次はどうしていくかを考えることができました。	随時
		○講座で実施した内容を、実生活の中に取り入れられるよう意図的な場面を設定し、できた時にはフィードバックを行い、自然と自信に繋がるよう努めました。	随時
1	1 (「働く」意欲の向上) 将来、「働くことがイメージできる」支援を提供します。	○高校生を対象にビジネスマナー講座や、働くために今からつけていきたい力を考える等の自己理解を目指したプログラムを実施しました。	1回/週 1回/月
		○合同会社西友三本柳店にて、体験実習を実施しました。実際に体験をすることで、責任を持つこと、達成する喜びを伝えることができました。	8月
		○全年齢を対象に企業へのお仕事見学会を実施しました。利用者本人だけでなく、保護者の方にも参加をしていただき、働くことのイメージを共有することができました。	8月

2	新規利用者の確保及び、登録者1人当たりの利用日数を増やしていけるよう活動を展開します。	○契約日数の範囲内で一人一人に必要なプログラムに参加していけるよう勧め、利用曜日の調整を行いました。令和2年度はコロナの影響により、状況に応じて自宅待機を希望されるご家庭が多く見受けられました。	随時
		○関係機関での積極的な支援会議への参加及び関係機関の一覧表を作成し、優先順位を決めて、各機関への訪問を実施しました。 ○学校における出前講座やセンターの説明会を実施しました。	随時 2月
		○現在利用のある方が在籍されている学校や過去に利用があった方の学校への訪問を実優先的に実施しました。	随時
2	職員の支援技術及び資質の向上に勤めます。	○コロナ禍により、外部研修への参加は殆どありませんでした。支援会議での情報や支援の方向性についてはミーティングにおいて共有する時間を設け、部署としての自己研鑽に努めました。 ○後日ネット上にて配信された研修については、空いた時間に鑑賞する等のコロナ禍における研修への参加の在り方に工夫ができました。	週1回 適宜
		○周知活動で訪問した際に、事業所の見学と意見交換等を行い、連携の強化とともに、事業所としての役割の再確認を行いました。	7、8月
		○ミーティングで月のプログラム作成を検討し、役割を決めてそれぞれ資料作成及び講座を実施しました。また、資料作成した職員と講座を実施する職員が異なる場合においては事前に共有をし、誰でも実施できるよう努めました。	随時
2	保護者・関係機関との連携を強化します。	○長野市の自立支援協議会こども部会の執行部に参加をし、関係機関との連携に努めました。	毎月
		○コロナ禍における自粛期間中において、週に1回本人や保護者と連絡を取りつつ、休み期間中の様子や次回利用に向けての相談をするなど、連携を図りました。 ○全員が安心してご利用いただけるように検温や体調管理について、ご家庭と連携して、サービス提供ができるよう努めました。	4、5月 随時

(キャリアサポートセンター年度末事業報告別紙)

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	平均稼働率
H30	年度	42	7	11	24	19	1421	49.1%
R01	年度	38	5	14	17	13	1470	50.8%
R02	上半期	33	8	13	12	8	469	34.8%
	下半期	36	7	16	13	4	818	53.8%
年間計・平均						12	1287	44.3%

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者数	28	28	27	28	33	33	34	35	36	36	36	36	291
開所日	25	23	26	25	21	24	27	23	26	23	22	26	291
延人数 平日・休日	30 6	31 7	81 14	77 21	81 31	88 29	111 39	94 28	114 28	85 27	87 27	132 19	1011 276
稼働率	14%	17%	37%	39%	53%	49%	56%	53%	55%	49%	52%	58%	平日 休日

○分 析

○令和2年度4月から新規利用者12名、2名児童養護施設入所により利用停止。年度末登録者36名でした。
○利用率について…4月第2週目より、市内の学校がコロナウィルス感染予防のための臨時休校となり、6月より、通常登校となりました。休校中も分散登校など各学校ごとに対応され、その中で、平日は14時から18時、土曜は10時から16時での受け入れを実施しました。原則、利用自粛でのお願いをしつつ、仕事の都合やもともと不登校気味の方に関しては受け入れをしてきました。特に、登校ができていない方に関しては、長い休みが続くことでモチベーションの低下による不登校となってしまうよう個別対応での定期利用を継続的に実施してきました。自粛されている利用者に対しては、週に1回電話での連絡をし、ご家庭での様子を聞き、利用への気持ちが途切れてしまわないよう配慮してきました。6月以降も、安全に配慮し、利用を自粛されるご家庭も多く見受けられました。8月1日より、多くの学校が夏休みとなりましたが、期間も短いため、昨年ほどの利用はありませんでした。冬休み、春休みは通常の数に戻りつつありましたが、傾向として送迎が実施できない須坂市、千曲市訪問面の電車を利用して来られる方のキャンセルが多く見受けられました。その他、軽度の体調不良でも原則として学校をお休みとなるため、そのまま放デイもお休みとなる方も多く見受けられました。
○周知活動…養護学校及び各分校、通信制学校、各高等学校及び長野養護学校本校及び朝陽教室での説明会の実施。病院関係では、竹重病院と新しく開院したFメンタルに訪問し、パンフレットを置いていただきました。福祉関係機関では、療育コーディネーター・長野市委託相談員・相談支援専門員のいる事業所へ訪問しました。
○プログラムの作成に当たり、外出ではあまり人が多くない場所や貸し切りが可能かどうか、実際の現在の混雑状況を訪問先へ事前に確認をする等の最大限感染予防に配慮しながら、安心して楽しく参加していただける内容を検討・実施してきました。
○活動の実施基準として、長野圏域の警戒レベルに応じて判断をしました。

3. 連 携

連携先

		支援会議
R02	上半期	25
	下半期	31
	計	56

※教育機関(各特別支援学校、各地域校) ※医療機関(竹重病院、東口メンタルクリニック) ※福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、各相談支援事業所、各サービス事業所) ※行政 ※その他(職業センター、合同会社三本柳店、ニッキフロン株式会社)

○分 析

○可能な限りで支援会議への積極的な参加をしてきました。その中で、学校との連携を深め、本人の目標を共有し、統一した対応ができました。課題としては、学校を含めた会議となると夕方となることが多いため、参加ができないケースも多くありました。
○高校生の就職に向けた講座の一環として、合同会社西友三本柳店にて体験実習を、ニッキフロン株式会社にて企業見学の実施をしました。実習及び見学の趣旨を伝え、企業より利用者に向けて働くにあたって必要な力など具体的なお話を聞くことができ、働くイメージの増進に繋がりました。
○2月25日に長野養護学校にて就職者向け、生活介護向けの2グループに分けて、「金銭管理」に関する講座を実施しました。継続して実施をしていき、事業所の活動を知っていただけるよう努めます。
○長野市自立支援協議会こども部会に執行部として参加をし、コロナ禍における障害児支援について、学校や行政との連携会議を実施しました。学校、福祉のそれぞれでの具体的な課題の精査や今後の対応について共通認識をしていくことで、連携について深めていくことができました。

1	事業目的	利用者一人一人の「はたらく」「くらす」を実現していけるよう、日々の生活の中で自信を持つ事が出来るよう支援をしていきます。「はたらく」それぞれの出来る力に合わせ作業に取り組む時間を設けていきます。「くらす」創作活動・音楽活動・余暇活動・体力作り等、様々な活動を実施していきます。また社会とのつながり等も大切に活動を行います。	
2	事業内容	障害福祉サービス	生活介護事業
3	事業概要	生活介護 定員20名 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～16:00	
4	職員体制	管理者 1名、サービス管理責任者 1名、支援員 6名、准看護師 1名、運転手 2名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	生活介護利用者・家族の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	○利用者の1日の様子を日誌に記し、ご家族と密に連絡を取りました。本人・保護者からの不安や悩みが強く感じられた場合は相談支援専門員に連絡を取り、必要に応じて支援会議や個別に面談を行う中で利用者や家族の想いを聴かせて頂き支援を行いました。 ○コロナウイルスの影響で、面談や支援会議が延期になったり、電話等での対応をとる事もありました。保護者との面談は管理者が行っていましたが、他のスタッフにも参加してもらい、利用者や保護者の想いなどを聞く事が出来ました。個別支援計画の作成では、利用者それぞれに担当を設けモニタリング会議を行い、管理者が個別支援計画を作成しました。 ○作業や支援内容に変更があった際は、ご家庭に相談・報告の徹底を図りました。	随時
1	活動内容の充実を図ります。	○外部の事業所から請け負っている内職作業(ブライダルの商品)は、新型コロナウイルスの影響で入荷がなくなり終了となりました。そのため、他の事業所より、新たに飴の袋詰め作業などを請け負う事となりました。袋に飴を12個ずつ入れる際に、12個に区切った線を書いた紙の上に飴を並べる事で、正確に飴を袋に入れる事が出来るようになりました。その他の工程でも利用者それぞれが取り組みやすいように提示する事で正確に作業に取り組む事が出来ました。 ○アパートの共有部分の清掃作業は、新たにもう1ヵ所請け負う事となり、6ヵ所を月に1回ずつ清掃しました。 ○新たに、フリーペーパー「ほっとパル」の広告の差し込み・ポスティング作業(290部)を行いました。最初は、ポストに入れるのはスタッフがやっていましたが、利用者にやってもらおうと、自分でポストに入れる事が少しずつ出来るようになりました。 ○法人内の清掃作業や玩具の消毒作業、外部事業所から、シードペーパーの封入作業、利用者宅からカレンダーの封入作業の依頼が来て納品を行いました。	随時
		○「くらす・あそぶプログラム」に関しては、新型コロナウイルスの感染対策をしながら活動を行いました。外出活動は、新型コロナウイルスの状況を鑑みながら、人の多い所や感染が拡大している地域には行かないようにし、外食はファミリーレストランではなく、テ	

		イクアウトにし、調理実習は行いませんでした。 ・外出:小布施公園・象山神社・足湯 等 ・外食:2ヶ月に1回(テイクアウト) ・DVD鑑賞:月1～2回 ・創作活動:月1～2回 カレンダー作り・絵画 等 ・アート活動:毎月1回(講師を迎え)墨遊びや絵の具、クレヨンを使い絵画 ・公園でウォーキング活動:10月～11月 月1～2回 ・音楽を聴きながらリラクゼーション:月1～2回 ・ウィズでの体操:月2回	10月～3月
		○「健康管理」に関しては、毎日の検温・月1回体重測定・保健だより(熱中症・感染症予防)の制作を行いました。 ○新型コロナウイルスの感染対策として、ウィズでの検温・手指消毒やご家庭で健康セルフチェックを行ってもらいました。 ○利用者の身体状況の変化が見られた際は、保護者に連絡を行いました。また、利用者の平均体温を把握し、早退及び経過観察をする事で体調の悪化を未然に防ぐようにしました。	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○養護学校の進路指導主事に活動内容や空き状況を説明しました。 ○発達支援センター利用者に「はたらくプログラム」の体験をしてもらえるような場を作りました。 ○長野市障害福祉ネットへの参加をしました。	随時
2	職員の支援技術向上を目指します。	○ヒヤリハットや事故・苦情・気づきの中から、再発防止に努めるようにしました。 ○ミーティングでは、個別支援計画の目標に基づいた支援の見直しや確認、情報共有や事故に関する事を中心に行いスタッフ間で統一した支援が出来るように努めました。 ○外部の研修(リモート)に参加し、センター内で報告会を行いました(3回)。	随時

(生活別紙)

1. 利用状況

		期末利用者数	新規利用者数
H30	年度	22	
R01	年度	22	
R02	上半期	22	
	下半期	21	
	年度	21	

支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
H30	年度	1	9	8	4	4.7
R01	年度	1	8	9	4	4.7
R02	上半期	0	9	9	4	4.8
	下半期	0	8	9	5	4.9
	年度	0	7	9	5	4.9

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
人数	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	21	22
開所日	22	19	22	22	19	21	23	20	23	20	19	23	21
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
延人数	326	310	390	349	297	341	381	329	384	329	304	383	344
稼働率	74%	82%	89%	79%	78%	81%	83%	82%	83%	82%	80%	83%	81%

○分 析

○2月で1名が利用終了となり年度末の時点で20名の定員に対し21名の登録となっています。

○新型コロナウイルスの感染予防のため、4月にウィズの利用を自粛して欠席をした方が何名かいたもので、4月の稼働率は大きく下がりました。その後は、入所施設から来ている利用者1名が感染予防のため欠席が続いていますが、それ以外の方は、ウィズを利用出来ています。

○月に1回、利用できる限度内で土曜日開所を行いました。利用を希望される方が固定されて来ていて、毎回6～7人が利用をしました。

○活動面においては、利用者の人数に対し室内の手狭さがある事と、コロナウイルス感染防止のため、3グループに分かれ、3カ所で活動を行いました。センターから外出する際には、コロナウイルスの感染予防をしながら、一度に全員外出するのではなく、日にちをずらして活動を行い、4グループに分かれて外出をする事で、スタッフの混乱や利用者同士のトラブル減少に心掛けると共により安全に楽しく過ごして頂けるようにしました。

1	事業目的	障がい者が、「働く」ことを通して、地域で暮らし社会に参加して行くことができるように、ひとりひとりの願いに応じた就労支援を行っていきます。就職支援・就職後のフォローアップまで、『自立したい』『はたらきたい』気持ちを、社会での役割を実感する中で、サポートしていきます。	
2	事業内容	障害福祉サービス	○就労移行支援 ○自立訓練(生活訓練) ○就労定着支援
		助成金・補助金	○職場適応援助者(ジョブコーチ支援・訪問型)
3	事業概要	定員:就労移行14名、自立訓練6名 開設時間:平日8:30-17:30 サービス提供時間9:00~16:00 施設外就労(老人福祉施設での清掃活動)を中心に、計画的に実施する座学を通して、一般企業内において『はたらく』をイメージできるよう年間を通して積極的に一般就労の機会を提供します。また、企業の方が障害福祉について理解を深められるよう伝えていくとともに、継続的な職場定着を支援致します。	
4	職員体制	○管理者1名 ○サービス管理責任者1名 ○就労支援員2名 ○生活支援員(就労移行)1名 (自立訓練)4名 ○職業支援員2名 ○定着支援員3名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	一般就労を目指します (目標就職者7名以上)	【就労移行、自立訓練】 ○個別支援計画の内容について、2週間に1回振り返りを行い、ご本人が主体的に計画を立てられるように一緒に考えました。振り返りを通して自分の強みや課題を知り、目標に向かって訓練に取り組むことが出来ました。	2/週
		【就労移行】 ○新型コロナウイルス感染拡大の影響で、4~6月は求人の減少や企業の受け入れが難しく、就職活動ができない状況がありました。そういった中でも、会社見学27件、実習18件実施しました。利用者の希望と目的に合わせて行うことで、モチベーションアップや就職に向けての課題の振り返りが出来ました。	通年
		【就労移行】 ○就職者7名(内 A型事業所就職者1名)	
		【就労移行・自立訓練】 ○定期的な支援会議の実施 3か月毎のモニタリングに合わせて、ご本人・保護者・関係機関と情報共有を図りました。事業所や家庭での様子、就職に向けての課題等について確認が出来ました。	随時
1	【就労移行・自立訓練】 一人ひとりのニーズに合わせた働く場を場所を提供します	【就労移行、自立訓練】 ○施設外就労として、老人ホームでの清掃やシーツ交換を行いました。企業の中での訓練を行うことで、より働くことのイメージを膨らませ、社会の一員としての自覚や働く力を身に付けていくことが出来ました。 ○施設外支援にて、9月にガス会社にてヒーターの清掃作業を行いました。今後も地域の企業と連携し、要望に応じて新しい業務に取り組んでいきます。	通年

1	【就労移行・自立訓練】 一人ひとりのニーズに合わせた働く場 を場所を提供します	【就労移行、自立訓練】 ○単発の施設外就労として、老人ホーム廊下のボ リッシャー洗浄を行いました。特殊機械を使っ ての作業体験ができ、経験の幅が広がる機会 となりました。 ○例年行っているワックス作業は、コロナに による感染防止のため、中止となりました。	9月
		【自立訓練】 ○関係機関と連携しながら、少しずつ通所日 数を増やし、活動に参加していくことが出来 ました。利用者がどうなりたいかを考え、そ の希望をかなえるための目標を自分で決め て活動することができました。 ○施設内作業の充実(新規) カレンダー袋入れ シードペーパーの封入 パチンコ台の解体 封筒作り	通年
		【就労移行、自立訓練】 ○新型コロナウイルス感染防止のため、6月 以降に社内学習会を再開しました。 ・新規利用者オリエンテーション「働くとは」 他 ・防災について ・伝言ダイヤル体験 ・在職者の話 ・求人票の見方 ・良いところ探し ・履歴書の書き方 ・面接の受け方 ・感染症について ・初詣 ・食生活について ・余暇の過ごし方 ・セルフプラン見直し	毎月
1	【就労移行・就労定着】 就職後も安心して働けることができるよう、 丁寧なフォローアップをします (目標定着率80%以上) ※過去3年間における就労定着率	○就職後は、他機関と連携を図りながら、安 心して働くことが出来るよう支援しました。 ジョブコーチ支援終了後、ご本人の希望に 応じて、定着支援サービスによるフォローア ュップを行いました。定着支援利用者は12 名、離職者1名、利用終了者2名となり、定 着率は80%となっています。	通年
1	職員の就労支援技術の向上を目指 します	○外部研修への参加を行いました。 ○内部研修への参加及び研修の報告会を実 施しました。	随時
		○毎日夕方の申し送りと毎週水曜日にスタ ッフミーティングを実施しました。日々の様 子や課題、スタッフの関わり方などについて 振り返りました。司会全員が持ち回りで行 うことで、会議を進行し、皆の前で話をす る機会としました。一人一人が発言しやす い雰囲気を作り、意見を出し合うことが出来 ました。	毎週
1	新規利用者の確保に向けた活動を展 開します (目標年間平均稼働率80%以上)	○関係機関に向けて、今年度初めて活動の様 子を載せたウィズ便りを作成したり、パンフ レットの配布を継続して行いました。 見学者18名、体験6名の受け入れを行い、 8名利用に繋がりました。相談機関等から の紹介により、順調に利用者が増え、就職 による減少があっても、年間平均稼働率は 98%となりました。	通年

(就労別紙)

1. 利用状況

		就労移行			自立訓練			就労定着		
		実利用者数	新規数	稼働率	実利用者数	新規数	稼働率	実利用者数	新規数	離職者数
R01	年度	21	10	81%	2	0	22%	12	8	2
R02	上半期	19	8	103%	3	2	9%	12	3	1
	年度	22	11	98%	5	4	14%	12	3	1

2. 月別利用状況

就労移行		定員14名											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	21	18	22	22	19	21	22	21	22	20	19	23	20.8
登録者	14	14	15	16	16	17	17	16	16	13	12	12	14.8
稼働率	94%	91%	100%	111%	112%	109%	113%	108%	99%	84%	81%	79%	98%
自立訓練		定員6名											
登録者	1	1	1	1	2	2	1	2	2	2	3	3	1.8
稼働率	17%	17%	9%	0%	4%	7%	8%	15%	17%	16%	24%	33%	14%
就労定着													
登録者	9	9	10	11	12	12	11	11	11	11	10	9	10.5
利用者	7	7	8	8	8	6	7	4	7	5	5	7	6.6

3. 利用経路 ※()内自立訓練

	市町村	就業・生活 支援センター	ハローワーク	医療機関	教育機関	相談機関	その他	※その他 「ホームページを見て」 「就労移行からのサー ビス変更」
上半期	0	5(1)	0	0	6	6(2)	2	
年度	0	7(1)	0	0	6	6(2)	3(2)	

○分 析

就労移行
4月は14名(内新規3名)でスタートしました。新規利用者については、見学者18名・体験6名の受け入れを行い、8名(内、自立訓練から1名サービス変更)が利用に繋がりました。また、就職者7名、就労アセスメントのみの利用者1名、自立訓練へのサービス変更が3名となりましたが、稼働率の平均は98%となり、年間通して安定した利用状況となりました。新型コロナウイルスの感染拡大がありましたが、衛生・体調管理をより慎重に行いながら、施設外就労等の活動は通常通り行うことが出来ました。
自立訓練
利用者5名の内、新規利用者が4名で活動してきました。在宅期間が長かった方も関係機関と連携しながら、少しずつ体力や自信が付き、週5日出勤できるようになっています。しかし、自立訓練から就労移行にサービス変更される方や家庭や事業所での不安等が大きくなり、休みが続く方もあり、稼働率が14%となりました。自立訓練を希望して来所される方が少ないため、病院のデイサービスや関係機関等に積極的に周知活動を行って行きます。
就労定着
今年度は12名の方が利用し、就労が安定している方(2名)、離職された方(1名)がサービスを終了しています。新型コロナウイルスの感染防止のため、企業から訪問を控えてほしいとの要望があったり、建物外での面会になる等十分な支援が難しい状況がありましたが、訪問ができない場合は、企業・本人への電話連絡にて様子をうかがいながらサポートしました。就労意欲が落ちている利用者には、業務の調整をしたり、本人・家族と面談を行い、安心して働き続けることが出来るよう支援しました。

4. 実習状況

		見学	実習	ジョブコーチ
R02	上半期	17	8	3
	年度	27	18	9

見学及び実習先(職種)

- ・メトロポリタン(客室清掃等)
- ・スズキ(洗車)
- ・西友戸倉店(値付け作業)
- ・長野日本無線(清掃)
- ・ブルーライン(クレート洗浄)
- ・JRC(ピッキング)
- ・マツモトキヨシ(品出し・清掃)
- ・ミュゼ(タオルたたみ等)
- ・ムサシ(品出し)
- ・クスリのアオキ(品出し、清掃)
- ・スタジオCOCO(クリーニング)
- ・サクラ精機(清掃)

○分 析

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、求人の減少や企業側から実習等の受け入れを断られるケースもあり、4～6月は見学・実習をほとんど行えない状況がありました。そういった中でも、働くイメージ作りや意欲の向上につながるよう見学27件、実習18件実施しました。ハローワークでの求人検索や窓口相談を利用者が主体的に行えるようサポートし、ご本人が選んだ求人情報から見学先を選ぶなど、自主性を大切にして活動しました。今後も、ご本人の希望や目的に合わせて見学体験を実施していきます。

5. 就職状況

		就職者数 ()内A型事業所	平均利用 期間	平均実習 日数	定着支援 利用者数
R01	年度	6	1年5ヶ月	23	12
R02	上半期	0			12
	年度	6(1)	2年1ヶ月	35	12

就職先(職種)

- ・JRCロジスティクス(ピッキング)
- ・ブルーライン(クレート洗浄)
- ・長野日本無線(清掃)
- ・西友戸倉店(値付け作業)
- ・A型事業所スタジオCOCO(クリーニング)
- ・スズキ(洗車)
- ・MINI(洗車)

○分 析

就労移行

モチベーションの維持が苦手な方や就職への不安がある方も、訓練の中で少しずつ自信を付けて、6名の方が就職しました。新型コロナウイルス感染拡大により、就職活動が困難であった利用者のサービス利用延長手続きを3名行い、1名が就職に繋がりました。就職活動については見学⇒体験⇒実習という流れの中で、経験を通して利用者が主体的に決めていくことを大切にして取り組みました。

1	事業目的	○相手から話を聴き、必要に応じて基幹相談支援センターや関係機関と連携していくことで、本人の目的達成、課題解決にむけてサービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成し、取り組むことを目的とします。また相談を通して見えてくる地域の課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいきます。	
2	事業内容	相談支援事業	○指定特定相談支援事業、障害児相談支援事業
3	事業概要	開設時間平日9:00～18:00	
4	職員体制	相談支援専門員2人(専従2人)	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	基本相談支援を行います。	○基本相談はウィズの各センターを利用する方を中心に継続した支援を行いました。相談支援機関として客観的な視点をもてるようにしてきました。	随時
1	質の高い事業者を目指します。	○サービス受給者証の更新月に基本相談→サービス利用計画の作成を行ってきました。 ○モニタリングについては、法人内各事業所と連携しながら効率的に実施できるよう努めました。 ○各種研修に参加しました。(スキルアップ研修、主任者研修、虐待防止研修)	随時
1	関係機関との連携を強化します。	○基本相談、サービス利用を行っていく上で、必要に応じて家庭、行政、教育、福祉、その他機関との連携を行ってきました。 ○長野市障害ふくしネット相談支援事業所連絡会に執行部として参画、地域の実態やニーズ、地域課題の把握等、幅広い見識を得ることができました。	随時

○利用状況

		障害児相談支援(子ども)			特定相談支援(大人)			相談支援専門員数
		登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	
H30	年度	57	92	14	58	61	21	2(専従1、1月から専従1)
R01	年度	65	89	55	59	68	62	2(専従2)
R02	年度	70	90	104	59	70	99	2(専従2)

○分 析

登録者数については、サービス新規利用時に増加し、サービスの終了時に減少するといった状況にあります。法人内での新規サービス利用者が主な増加要因となっており、児童発達支援、放課後等デイサービス、就労定着支援が主な新規利用サービスの内容となりました。サービスの終了は主には、進学や就職といった要因が挙げられます。

相談内容は多岐に渡り、近年は、要保護児童や家族まで巻き込んでいくような複雑化したケースも増えてきています。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、対面での支援、会議をできる限り控え、電話対応、最小限での支援会議の実施を行ってきています。ZOOMを利用したリモートでの支援体制も整いつつありますが、実際には活用でませんでした。相談支援については、信頼関係を構築していく上で、対面での支援が基本であると感じていますが、コロナ禍で新しい形の相談支援のあり方を模索中です。関係者間の会議や研修においてはリモートにて実施する場面が増えました。

1	事業目的	地域での生活や日中の活動ができるように、ひとりひとりの願いに応じて生活面や就職活動から職場実習、就職後のフォローアップまで就労の場の確保と安定した職業生活が実現できるよう支援します。また、関係機関や諸団体等の連携を図りながら各種社会資源を最大限に活用し、地域に根ざした就業・生活支援に関する総合的な役割を果たすとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし・働き続けられるよう一役を担っていきます。
2	事業内容	雇用安定事業・生活支援事業 長野県短期トレーニング事業
3	事業概要	開所時間:9:00～17:30、月～金
4	職員体制	所長兼主任就業支援ワーカー 1名 就業支援ワーカー 3名 主任職場定着支援ワーカー 1名 就業支援ワーカー(定着支援担当) 1名 生活支援ワーカー 1名 計7名
5	事業報告	

優先順位	事業目標(目標値)	年度末実績報告	実施月
1	就職や生活面での不安や悩みを聞き、一緒に考えます。 登録者数:642名(新規:146名) 相談支援件数:6,124件	○複数体制で面談に入り多角的な視点でアセスメントをすることにより、様々なニーズを持つ相談に対応できるようにしました。 ○作業面、心理面のアセスメントをセンターで取ることができるよう、アセスメントツールの整備を行い29件実施しました。データ数の不足やマニュアル整備等課題は残りますが、実際に作業訓練を行った利用者に精神面で変化が見られたこともあり、今後も積極的に活用していこうと考えています。 ○多様な働き方に対応ができるよう、リモート支援の整備を行いました。圏域内ではまだニーズは高くありませんが、今後必要に応じてリモート支援の活用も検討していきます。 ○生活面の支援が必要なケースでは、生活支援ワーカーを中心に面談をし本人の困り感を聞き取りました。関係機関と役割分担をしながら、本人の職業上における生活面の支援を行いました。	通年
1	職場開拓を実施します。 職場実習を行います。 実習件数:115件(実人数60名) 就職件数:86件 うち一般:79件、A型:7件 短期トレーニングからの就職:43件 就職率:84% <目標値> 職場実習斡旋数:120件 就職件数:75件 就職率:73.5%	○今年度より実習計画書を作成し、実習における約束事や緊急連絡先を企業と確認するようにしました。また最初の実習は短期間で設定し、必要に応じて延長をすることで利用者・企業双方が安心して実習に取り組めるようにしました。 ○職場実習開拓件数は30件でした。初めて受け入れる企業には特に丁寧に制度や実習の進め方について説明し理解をしていただくよう心がけました。 ○短期トレーニングを活用した就職は43件で就職への移行率は72%でした。コロナ禍で体験としての実習をあまり組むことはできませんでしたが、就職から安定した定着に向けて職場実習を活用することができました。 ○ハローワークと連携をして企業開拓をした件数は4件でした。業務の切り出しや障害者雇用の諸制度について説明をしました。そのうち2件で職場実習を実施し就職が決まりました。	通年
	職場定着支援の充実を図ります。 職場定着訪問件数:942件 うち精神:294件(31.2%) 1年経過後の職場定着率:91.5%	○上半期は定着訪問を控えていましたが、こまめな電話相談等で状況把握をし、下半期は必要な企業へ定着訪問をすることができました。 ○コロナ禍で出勤日数が減ってしまった方には、日中過ごす場として地域活動支援センターを紹介したケースが5件ありました。特に飲食業、観光業が厳しく出勤日数が半分以上に減っているケースもあり、収入や余暇の過ごし方について安心して過ごせるよう支援しました。	

1	<目標値> 1年経過後の職場定着率:88.5%	○中小企業の障害者雇用担当者支援 計3回研修・懇談を行いました。センターの概要説明や障害者雇用の受け入れ～雇用管理について説明をし、懇談では企業担当者の疑問や困りごとについて話し合いました。 ○【主任職場定着支援件数:690件】 体調を崩して出勤が不安定になるケースが多くありました。関係機関とも連携し、相談を重ねながら勤務時間の調整、休職・退職等ご本人、企業にとって良い選択ができるよう支援をしました。	通年
1	圏域内のネットワークの構築を目指します。	○コロナ禍で自立支援協議会はリモート開催や書面会議となりました。長野市ケアマネ連絡会と就労/相談団体連絡会議へ月1回参加をして圏域内の課題の検討や雇用情勢の情報共有を図りました。 ○相談内容に応じて他機関への介入依頼をしました。特に市委託相談員等には相互に相談をしながら支援を行いました。自センターで抱えずに、チームとして支援をすることで、各専門分野を活かす支援につながりました。 ○メンタルクリニックで就労セミナーを行ったり、リワーク支援で連携するなど、医療機関と連携する機会を増やしました。	随時
1	就職希望者や在職者への講座や交流会を行います。	○在職者交流会 年度当初の計画と開催時期・内容等を変更をして11月に4回実施しました。平日休みの在職者と土日休みの在職者を少人数のグループに分けてグループトークを行いました。例年土日開催だったため、平日に開催することにより平日休みの在職者も参加することができました。 ○ピアサポート事業 7月に2回(就労支援センター利用者、メンタルクリニックのデイケア利用者)、11月に2回(センター登録求職者)の計4回実施しました。求職者にとっては障害をもちながら実際に働いている人の話を聞く貴重な機会となり、今後の就職活動に向けて意識を高めることができました。	随時
2	職員の就労・生活支援技術の向上を目指します。	○毎日17:30～、毎週木曜日にミーティングを行い、担当しているケースの進捗状況や課題について報告し情報共有をしました。互いに意見を出し合い、ご本人にとってより良い支援を模索しています。日々の意見交換を通じて、職員1人ひとりの支援力の向上を図りました。 ○上半期、緊急事態宣言により事務所内での支援や事務作業が主となった結果、事務仕事が整理され、スケジュールの組み方を皆で試行錯誤しながら工夫した結果、年間通して時間外勤務が減少しました。 ○他機関主催の研修に参加して、支援における知識向上に努めました。 ○5月に2回、障害者職業センターで職業評価や準備支援について研修を受け、アセスメントのやり方や視点についてお聞きをしました。今後の支援やセンター事業へ活かしていけるように職員のスキルアップを図りました。 ○必要に応じて2～4名で担当する業務・事業等についての打ち合わせを行い意見交換をしました。	随時

(長野圏域障害者就業・生活支援センター 別紙)

1. 利用状況

障害種別・就業別

		期末利用者数	新規利用者数
H30	年度	616	136
R01	年度	634	151
R02	上半期	537	39
	下半期	642	107
	年度	642	146

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
在職中	34	18	264	94	157	7	462
求職中	10	4	43	11	88	3	144
その他	0	0	28	5	8	0	36
合計	44	22	335	110	253	10	642

1) 出身地域別

	上半期	下半期	合計
長野市	420	78	498
同一圏域内	115	25	140
その他	2	2	4

※同一圏域内

須坂市、千曲市、信濃町、飯綱町、小布施町、高山村、小川村、坂城町

2) 新規登録者利用経路

	上半期	下半期	年度計
ハローワーク	7	13	20
職業センター	0	1	1
特別支援学校	1	26	27
就労移行	11	19	30
福祉施設	5	10	15
行政	1	4	5
直接利用	3	11	14
その他	11	23	34
合計	39	107	146

3) 相談・支援(システム上)

		件数
H30	年度	7,170
R01	年度	5,617
R02	上半期	2,929
	下半期	3,195
	年度	6,124

4) 月別利用人数(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
241	265	191	210	186	184	232	203	234	258	213	190	2607

○分 析

・新規相談について

新規相談は137件で(上半期59件、下半期78件)、うち77件(56%)が求職者からの相談でした(定着19件、実習17件、学生24件)。そのうち新規登録に繋がったケースは101件でした。面談の中で生活面も含めてアセスメントをし、必要に応じて関係機関と連携をしながら支援を行いました。体調面や長年のブランクがあるなど就労準備性が整っていないケースでは、ご本人の希望を丁寧に聴き取りながら納得のいく選択ができるよう支援しました。

・登録者について

年度当初に登録者を整理して496名から開始しました。上半期に登録抹消をしていた利用者からの相談もあったため下半期に改めて確認をし45名を再登録しました。過去2年間の新規登録者の平均は143名で、今年度は再登録者も含め146名が新規登録となりました。

・生活面について

福祉サービス利用に繋がった相談は17件(就労移行14件、就労継続B型3件)です。生活支援ワーカーによる相談については、「就労(30.12%)」、「不安解消・情緒安定(17.72%)」、「家族関係・人間関係(11.93%)」の相談が多い状況にありました。コロナ禍で不安を感じながらも就労を希望する相談や職場の中での人間関係に困り感のある相談などが多いことが分かります。特に生活面ではチーム支援を心がけ、関係機関と役割分担をしながら支援を行いました。

・相談支援件数について

3)について…コロナ禍で上半期は面談を控えていましたが、電話等での相談が多くあったため昨年度よりも相談支援件数は増加しました(昨年比: +500件程度)。4)では、月別相談者の実人数を記載しました。毎月200名前後の相談者がいました。

2. 実習状況

		実習	職業準備訓練	実習からの就職率
H30	年度	164	2	43%
R01	年度	113	5	19%
R02	上半期	53	2	21%
	下半期	62	2	47%
	年度	115	4	72%

(実人数)

3. 一般就労に向けたアセスメント件数

R02	上半期	4
	下半期	25
	年度	29

4. 個別支援計画作成件数

R02	上半期	23
	下半期	23
	年度	46

○分 析

・職場実習について

過去2年間の平均実習数は138件で、今年度は115件でした(昨年比: +2件)。短期トレーニング利用の実人数は60名で、うち43名が就職となりました(移行率72%)。計画書を作成し実習中の注意事項を確認したこと、まずは1週間程度の短期間で実習を設定し、可能であれば延長をするなどの工夫が効果があったことが示唆されます。職場実習の開拓件数は30件でした。

・個別支援計画作成について

主に職場実習や定着支援において、短期間での個別支援計画の作成を行いました(今年度から計上)。年間の作成件数は46件でした。今後、求職相談～職場実習～職場定着と長期的な視点で計画を作成していくことが課題となります。

3. 就職状況

		就職者数	定着職場訪問
H30	年度	77	1004
R01	年度	74	919
R02	上半期	53	346
	下半期	35	596
	年度	86	942

主任職場定着支援ワーカーの相談状況(支援件数)

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
業務内容	23	9	666	247	453	23	1165
対人関係	1	0	9	1	16	0	26
生活面	0	0	62	23	60	6	128
その他	0	0	5	0	4	0	9
合計	24	9	742	271	533	29	1328

○分 析

・就職について

過去2年間の平均就職件数75件に対して、今年度は86件でした(一般79名、A型7名)。所属機関がなく、当センターのみで相談をしている就職者は新卒を含め68名でした(一般61名、A型7名)。上半期は求人への動きも少なく職場実習も含めて利用者の動きが制限されていた分、情勢が落ち着いた下半期に動きが活発になったことから就職件数が増加したと考えられます。新規求職者数94名に対し就職率は84%でした(上半期104%、下半期65%)。コロナ禍でも離職者が少なかったことが理由と考えられます。

年度末時点で官公庁に就職をしている登録者は28名でした。県のチャレンジ雇用で勤務している利用者には活躍サポーターと連携をしながら転職(2名)の支援を行いました。

・定着支援について

過去2年間の平均職場定着訪問件数は961件で、今年度は942件でした。上半期は企業訪問件数は減少しましたが、外出支援が可能になった下半期は定着支援担当のみでなく、実習担当等も企業への定着訪問を行いました。厚労省は精神障害者の定着支援訪問目標率を全体の30%としていますが、今年度は31%(294件)でした。昨年比で100件ほど減少していますが、電話等の相談支援件数が多いこと、コロナ禍で仕事への不安や転職に気持ちが揺れるケースもありましたが、都度電話や来所面談する中で話を聞き、選択肢を提示することで今を見つめることが出来、離職せず勤務を継続ができていたこと等が1年経過後の定着率に繋がったとみられます。

新型コロナウイルスが主な原因となる離職は5件でした(ホテル清掃3件、自動車関係2件)。そのうち4名が復職や再就職をしており、1名は就労移行の利用を調整中です。

・主任職場定着支援担当について

困難事例の支援対象の実人数は29名のうち離職は8名でした。コロナ禍で職場訪問ができない中で、特に飲食業や観光業で出勤が不安定になるケースがありました。相談内容は休業補償について、日中の過ごし方について等の相談が多かったため、企業との情報共有、福祉サービス利用など連携を図りました。